

〈 運営推進会議における評価 〉 ※公表用

【事業所概要】

法人名	特定非営利活動法人地域福祉活動支援協会 人間大好き	事業所名	看護小規模多機能ホーム あったかい家
所在地	(〒 739-2101) 東広島市高屋町造賀 241-1		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

要介護者が自宅において、可能な限りその有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことが出来るよう、通いを中心として訪問介護、宿泊、訪問看護を組み合わせ、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、入浴、排せつ、食事等の援助と体調管理を行う。在宅生活で困難となっていることをご家族と共に考え、支援していく。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2022 年 1 月 10 日	従業者等自己評価 実施人数	(23) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	--------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2022 年 3 月 24 日	出席人数 (合計)	(9) 人
出席者 (内訳)	<input checked="" type="checkbox"/> 自事業所職員 (3 人) <input checked="" type="checkbox"/> 市町村職員 (<u>1</u> 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (_____ 人) <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (3 人) <input type="checkbox"/> 利用者 (_____ 人) <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の家族 (<u>2</u> 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (_____ 人) <input type="checkbox"/> その他 (_____ 人)		

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
			自己評価	運営推進会議における意見等
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<p>① 事業所理念やサービスの特性を理解し、業務に生かせるような研修を行なう。職員育成のための目的設定で意欲的に取り組めるようにする。</p> <p>② 職員の情報共有について、連絡ノートや朝礼時に伝達・打ち合わせを行っている。担当者会議を設け、利用者のニーズや家族への対応方法等の打ち合わせを週1回実施していく。会議での決定事項のサービス計画を立てる。</p>	<p>外部研修については、コロナ禍で十分に出来ていない。内部研修については時間を取りながら実施した。また、名札に事業所理念を入れ、いつでも確認ができるようにしている。</p> <p>連絡ノートの活用、朝礼での伝達事項の報告、伝達掲示板(ホワイトボード)の活用で、周知徹底に努めた。</p> <p>また、当日リーダー、ケアマネ看護師、夜勤者、管理者を交えた申し送りで、情報共有を行った。</p>	<p>今まではコロナの関係や人員不足から内部研修ができなかったが、事業所理念にもとづき、職員ひとりひとりが意識して業務に取り組んできている。</p> <p>内部研修や社外研修について、コロナ禍で中止になる場合や延期になる場合があり、十分ではなかった。</p> <p>管理者からの申し送りボードの活用で、情報の共有や連絡漏れを防いできた。また、申し送りでケアマネ、看護師、管理者が利用者の状態と対応をその場で打ち合わせ、対処してきた。他の職員に対しては、連絡ノート等を活用して伝えてきたが、細かな所が伝わらないところが見受けられた。</p>	<p>ほぼ出来ていると思われる。全くできていない項目は努力してください。</p> <p>情報共有については、だいぶ改善されてきていると思う。情報の漏れを少なくするよう更なる改善を行ってください。</p> <p>職員間の情報共有の為の研修やシミュレーションを定期的に行い、理解を深めていくことが重要だと思います。</p>

	<p>③ 体調急変時の対応や災害時のマニュアルの見直しを行ない、さまざまな状況を想定した訓練・研修を実施し、対応不十分なところを整備していく。</p> <p>④ 車輛点検や防火・防災に関する対策の強化。模擬訓練を繰り返し行い、緊急時に適切に対応できるようにする。同時にマニュアルが機能しているか検証し、改善していく。</p> <p>⑤ 今回のコロナ感染症・まん延防止にも対応できる指針やマニュアルの整備も含めて見直し、改善していく。</p>	<p>マニュアルの見直しを行い、防災計画書として整備した。また、避難時の具体的な場所や準備物を整備した。</p> <p>今後はBCP（事業継続計画）策定実施義務化にもとづき、法人全体で委員会を設置・整備する。</p> <p>自然災害やコロナ感染症も含めた対応のBCPの計画書を作成し、整備・実施していく。</p>	<p>マニュアルに対しての避難訓練が十分できていない。マニュアルの見直し等が不十分であった。</p> <p>今後、緊急マニュアルを含めた防災計画書等、法人全体でのBCPを作成する必要があり、見直しを実施している。</p>	<p>就業環境の整備を改善した結果が内部評価結果に現れている。これからも改善に取り組んでください。</p> <p>様々な場面でのリスクや災害時の対応を常に想定しておくことが大切です。</p> <p>現在のコロナも災害の一つだと思います。利用者、家族、職員に感染者が出た場合等早急に対応方法を確立する必要があります。</p>
--	--	--	--	---

<p>Ⅱ. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p>	<p>① アセスメントシートをもとに、家族からの情報をケアマネ、管理者を中心として詳細にアセスメントを行う。また、職員と利用者日々の状態を照らし合わせながらケース会議を開き、サービス計画の作成や変更を行っていく。</p> <p>② 家族からの情報だけでなく、利用時の状況などを家族に提示できるよう、密な関係づくりをしていく。</p>	<p>新規利用者の受け入れの際は、情報提供の提示や朝礼などでの連絡を行っている。また、カンファレンスを行っている。定期的なケース会議は、業務の都合や担当者不在により十分にできていない。</p> <p>個々の関わりの中で、不安や身体上で問題点があれば、その都度介護・看護間で情報共有や問題解決の方法を相談している。また、家族にも情報を伝えて対処している。</p> <p>終末期ケアについて、病気についての見通しや、死を迎えるプロセスの理解と尊厳を持った向き合い方を学ぶ。</p>	<p>新規利用者や現利用者での支援方法で看護職員と介護職員の考え方やとらえ方のズレがある。職員が統一した対応が行えるようにする必要があるが、まだ十分できていない。</p> <p>朝の申し送りで利用者の状態を伝え、看護師やケアマネ、管理者を含めてどのように対応するかを決定している。その内容を、事業所内の連絡ノートや当日のリーダーに伝えて情報共有を行っている。</p> <p>家族や職員間の情報共有はできつつあるが、もう少し職員間の情報共有での伝達の漏れがなく柔軟な対応が必要。</p> <p>終末期ケアについて研修を行い、病気についての見通しや死を迎えるプロセスの理解と尊厳</p>	<p>職員間の情報共有をしっかりと工夫しながら行ってください。</p> <p>主治医との連携や、訪問での利用者の状態の把握、異常時の対応など改善してきていると思います。今後も改善対応を行ってください。</p> <p>小さな変化にも注意していただき助言も下さり安心して感謝しております。</p> <p>職員間や関連職種、主治医との連携や、訪問での利用者の状態把握、異常時の対応など改善してきている。今後も引き続き改善対応を行って行ってください。</p> <p>できなかったとされる原因を考え、改善策の検討が必要と思う。</p> <p>終末期ケアにおけるプロセスの理解の為の研修や教育を行ってください。</p>
----------------------	--	--	--	---	---

				を持った向き合い方を学んでいく。(法人内の訪問看護事業所より研修を受ける方向)	法人内の看護事業所等、有効な社会資源を活用し教育に役立ててください。
2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<p>① かかりつけ医だけでなく、看多機のケアマネや管理者を中心に地域包括支援センターや医療機関、地域資源との連携を図り、円滑な対応ができるようミーティングを行い、情報共有していく。</p> <p>② 看取りや緊急時の対応に関しては、模擬訓練や必要な医療用具等で不足するものを整えていく。</p>	<p>医療機関との連携を行い、訪問看護指示書の作成依頼や救急時の対応を連絡しながら行ってきた。しかし、地域包括支援センターとの連携や地域資源の活用についてまだまだ不十分。</p> <p>看取りでの対応について対処方法は整備しているが、対応実績がなく、検証が十分できていない。</p> <p>利用者の緊急対応については、かかりつけ医に相談し、看護師を中心に対応している。</p> <p>コロナ禍で地域の行事や包括会議等へ参加ができなかった。今後は状況をみながら、積極的に参加する。</p>	<p>利用者の主治医との連携はできてきている。その他の職種との連携を強化していく。地域資源の活用等、情報収集に改善が必要である。</p> <p>どんな地域資源があるのかを知り、活用していく。</p> <p>看取りを希望される方がおられず、職員が経験する機会がない。今後、看取りを希望される方に対応できる様、研修していく。法人の訪問看護事業所より定期的に研修や看取りに対する考え方を指導してもらおう。</p> <p>コロナ禍で計画したことが思うようにできなかったことがあげられる。また、業務に追われ時間が取れないことがあり、積極的に参加できていない。もっと認識を深めるよう計画して実施していく。</p>	<p>介護保険以外のサービスを含めた支援を行っていく為にも地域資源への働きかけを行ってください。</p> <p>多職種との連携が取れていることでいざという時にスムーズな対応が出来、柔軟にニーズに答えることができると思います。</p> <p>有効な社会資源等を活用し職員教育に役立ててください。</p> <p>看取りの際どのような手順を行うか可視化できるようにマニュアルみたいなものを作成されてはどうでしょうか。</p> <p>人工呼吸器などの高度な医療は管理が難しいので現状でよいのでは。</p> <p>地域包括ケアシステムについて</p>	

					は、まず地域の中での事業所の役割を職員がよく理解することから始めてみてはどうか。
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)	<p>① 看護小規模多機能型居宅介護事業所が地域の窓口となるため、地域の定例会や地域活動に積極的に参加。利用者も地域に溶け込めるよう、地域の行事にも積極的に参加する。</p> <p>② 地域住民の方にも、サロンに参加していただく。</p> <p>③ 地域の方が気軽に介護等の相談できる様、運営推進会議等で事業内容等の説明を行い、施設を知っていただく。</p>	<p>月1回のサロンを開催し、地域の方にも参加してもらっている。しかし、コロナ禍でサロンを中止せざるを得ない場合もあった。また、地域行事にも参加できなかった。</p> <p>救急法や看取り支援などの取り組みや教育が不十分。</p> <p>Facebook で日常の活動や広報を紹介している。</p> <p>地域の行事に利用者と参加しているが、まだ、開かれた事業所にはなっていない。</p>	<p>サロンでは、コンサート系の人気があった。色々な所へ声をかけ、気軽に参加して頂けるようなサロンの内容を展開していく。しかし、コロナ禍で中止せざるを得ない場合もあり、状況を見ながら対応していく。</p> <p>救急法(人口呼吸・心臓マッサージ・AED の研修)、看取り支援などの取り組みや教育が不十分である。</p> <p>サロン等のお知らせは、参加登録者への連絡と Facebook での広報だけにとどまっている。地域に出向き、地域活動に参加し、サロン等の参加を促していく。</p> <p>地区の組に加入し、定例会や清掃活動などに積極的に参加している。引き続き地区の行事等に参加し、開かれた事業所にしていく。</p>	<p>コロナ禍であるところ、よく活動されていたと思う。</p> <p>地域との連携を引き続き行い、相互理解を深め、地域にとってなくてはならない事業所になってほしい。</p> <p>看取りの際、どのような手順で行うか、可視化できるマニュアルみたいなものを作成されてはどうか。</p>	

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<p>ミーティングの場所に事業所理念を掲示している。また、事業所理念を個人の名札に入れて、いつでも確認できるようにしている。</p> <p>年間の職員育成計画を作成しているが、コロナ禍により中止になる場合が多く、計画的に出来ていない。また、ケース会議についても、職員間の話し合いが十分できていないところや打ち合わせの時間調整が難しいところがあった。</p> <p>体調急変時の対応や災害時のマニュアルの見直しや連絡先のリストを整備しているが、職員への定期的な情報の共有や訓練についてはまだ十分ではない。ヒヤリハットや事故報告での表面的な再発防止策でなく、原因を掘り下げた対策を検討している。内部研修を行い、事業所内の事故を減らす事を目指しているが、全員のレベルが向上するまでに時間がかかる。</p>	<p>いつでも確認できるように、引き続き名札に理念を入れている。また、定期的に唱和を行い、理念にもとづいて業務を行う。</p> <p>職員の教育については、OJT 教育(経験豊富な社員と一緒に、現場で業務を進めながら実務を学んでいく)を中心に職員教育を進めていく。また、職員の育成は、ズームや法人内の多職種のベテラン指導者を交え計画的に実施していく。</p> <p>身体的緊急時の対応や災害時のマニュアルの見直しを行い、総合的に法人全体でのBCPの策定を行い緊急対応方法として可視化する。(地域の方にも災害訓練の声掛けをする)</p> <p>災害時やコロナ等の感染症に対するBCPの策定を法人及び事業所全体で検討し、訓練していく。</p>	
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p> <p>2. 多機関・多</p>	<p>利用者のアセスメントについて、看護、介護間に考え方や捉え方のズレがあり、しっかりアセスメントし共有する必要がある。日常の様子を観察・記録し、家族からも情報を得る。また、朝のミーティングやケース会議を設け、情報を共有する必要がある。</p> <p>地域包括支援センター、かかりつけ医、他事業所との連携を図り、</p>	<p>アセスメントシートをもとに、家族から訪問時や通いの送迎時に様子を聞き、ケアマネ、管理者を中心として丁寧にアセスメントする。アセスメントをもとにサービス計画の作成や変更を行っていく。</p> <p>家族からの情報だけではなく、医師との連携により利用者の状態などを家族に伝え、家族と密に関係づくりができるようコミュニケーションを図っていく。</p> <p>かかりつけ医だけでなく、看多機の管理者やケアマネを中心に地</p>

<p>職種との連携 (評価項目 28～31)</p>	<p>在宅生活が円滑にできる対応を心掛けてきた。少しずつではあるが、以前よりは連携が取りやすくなってきている。家族への助言、看取りへの取り組みなどのサービスの向上につながるよう、研修を実践的に行う必要がある。看取りができる体制づくりと緊急時の対応については不十分な点もある。</p>	<p>域包括支援センターや医療機関、地域資源との連携を図り、円滑な対応ができるよう働きかけ、ミーティングで情報共有していく。地域包括支援センターの仕組みや役割について説明を受け、職員が地域包括支援センターの役割を理解する。</p> <p>看取りや緊急時の対応に関しては、模擬訓練や必要な医療用具等で不足するものを検討し、段階を追って整えていく。法人内の訪問看護事業所より、定期的に研修や看取りに対する考え方を指導してもらう。</p>
<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)</p>	<p>サロンは毎月計画してきたが、コロナ禍の影響で、中止していた。今後も引き続き状況をみながら、毎月定期的にサロンを開催していく。</p> <p>運営推進会議やサロン開催、地域への行事や自治会活動への参加を積極的に行うようにしてきたが、サロンについては、コロナの影響での開催中止や、地域の方への参加呼びかけが十分にできなかった。</p>	<p>看護小規模多機能型居宅介護事業所が地域の窓口となるため、地域の定例会や地域活動に積極的に参加していく。利用者も地域に溶け込めるよう、地域の行事にも積極的に参加をしていく。</p> <p>地域住民の方にチラシを配布し、地区の定例会でもサロンに参加してもらうよう声掛けを行う。</p> <p>地域の方も気軽に来所でき、介護相談ができる開かれた施設になるよう運営推進会議等でアピールしていく。</p>
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)</p>	<p>利用者や家族の意向に沿えるよう、意見や要望を取り入れながら泊り、通い、訪問のサービスを提供した。</p> <p>看取りや緊急時の対応などに関しては看護師を中心に研修と体制を整える必要がある。介護職員も緊急時対応できるよう基本的な知識と技術指導を行う必要がある。</p> <p>看取りは、利用者と家族からの要望があれば対応できるよう体制を整備する必要があり、現状では難題。様々な状況を想定し、必要な物を準備し整備する必要がある。</p> <p>利用者の看取りや急変に対して家族、医師と連携し、事前に意向を確認して対応を決める必要がある。</p>	<p>引き続き利用者や家族の要望や意向に速やかに対応し解決できるようコミュニケーションを積極的にとっていく。</p> <p>看取りや体調の急変に対する対応も家族、医師、事業所と連携を取りながら適切に対応する。</p> <p>看取りや緊急時の対応の研修を行う。看取りに関しては、事業所と家族だけでなく、他業種と連携（医療機関）や法人内の他の事業所との連携をとり、職員の研修やマニュアルの整備を行う。将来的には必須のサービスなので、いざという時に対応に困らないよう、誰にでもわかりやすいマニュアルの整備が必要。（運営推進会議での意見より）</p>

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します。

*医療機関や利用者家族、また地域包括ケアシステム、地域との協力のもと活動を行って行ってほしい。

*介護保険制度以外のサービスを含めた支援を行っていく為にも地域や地域資源への働きかけを行ってください。

*災害対応について、現在のコロナについても災害の一つと思われるので、早急に対応方法を確立する必要があると思います。

*介護における、認知症での問題が相談できるような、開かれた事業所やサロンを実施してほしい。

*気軽に地域の方でも、なんでも相談できる事業所を目標として行ってほしい。

■ 評価表 [事業所自己評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	3	11	5	4	全くできていない項目は努力してください。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業	3	14	5	1	職員の意識が高くなって頑張っ	✓ 「サービスの特徴および理念等を

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
	所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	[具体的な状況・取組内容] ミーティングの場所に事業所理念を掲示、また、事業所理念を職員の名札に入れて、いつでも内容を確認できるようにしている。				ておられると思います。引き続き頑張ってください。 事業所の理念は職員全員が理解できるように研修等に取り組んでください。	踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	3	9	11	0	0JT 教育をこれからも取り入れて技術向上を目指していってほしいと思います。	✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
		[具体的な状況・取組内容] 年間の職員育成計画を作成し実施しているが、コロナ禍により社外研修が中止になっている。					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	1	10	11	1	0JT 教育をこれからも取り入れて技術向上を目指していってほしいと思います。	✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 職員の内部、外部研修の時間が十分取れないことが多い。研修の方法を工夫して、レポート形式やリモートを利用している。また、内部での0JT教育も実施。					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専	4	7	10	2	改善を行ってってください。	✓ 「情報を共有する機会」の充足度を

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
	門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 朝礼、連絡ノート、ホワイトボード等で情報共有ができてきているが、勤務形態や勤務日もばらばらで、不十分なところがある。もっと職員間のコミュニケーションを取る方法を考えていきたいと思う。					評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている	3	10	9	1	ほぼ出来ている。	✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	2	14	6	0	ほぼ出来ている。 就業環境の整備を改善した結果が内部評価結果に現れている。これからも改善に取り組んでください。	✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随	4	12	7	0	以前に比べ改善が見られるよう	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	[具体的な状況・取組内容] 連絡ノート・朝礼等での情報の申し送りや打ち合わせを行っているが、不徹底だったため、ホワイトボードでわかりやすい様に改善した。まだ情報伝達に漏れが出ることがあるので、リーダーとの2重チェックを行う。				です。引き続き改善を加えて対応してください。 情報の漏れを少なくするように更なる改善をしてください。	迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	4	10	8	1	引き続き事故防止対応の改善をしてください。 安心して老後の生活が出来るよう福祉施設の充実、強化をお願いします。	✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	4	7	10	2	今後の課題とされる項目である。 職員間の情報共有の為の研修やシミュレーションを定期的に行って、理解を深めていくことが重要だと思います。 現在のコロナも災害の一つだと思います。利用者、家族、職員に感染者が出た場合等、早急に対応方	✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
						法を確立する必要があります。	
II サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている	0	13	8	2	ほぼ出来ていると思われる。 家族との情報交換を密にして対応してください。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている	0	13	10	0	引き続き改善していきましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	2	11	10	0	将来高齢者が安心して老後を送られる施設としてより一層の改善をお願いします。	✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
[具体的な状況・取組内容] 家族や利用者の意向を取り入れたサービスの提供に努めている。							
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	1	12	10	0		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
[具体的な状況・取組内容] 利用者の既往歴や状態を考慮しながら食事提供やケアを行っているが、事業所内でのリハビリや環境整備で不十分なところがある。							
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	1	12	10	0		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
[具体的な状況・取組内容] 利用者の状況変化の予測とリスクを踏まえて計画するようにしている。							
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	0	12	11	0	主治医との連携や、訪問での利用者の状態の把握、異常時の対応など改善してきている。今後も改善対応をおこなって行ってください。	✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] アセスメントに関して完全ではないところがあり、計画へ十分展開出来ていない。					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	1	12	10	0	引き続き対応して行ってください。	✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です ✓
		[具体的な状況・取組内容] 在宅でのサービス利用をご家族へ説明し、了解を得るようにしている。 通い・泊まりのサービスを適時適切に利用していただくよう提案している。					
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている	2	13	7	1	引き続き対応して行ってください。	✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 主治医に対しては、訪問看護報告書を作成し、定期的に報告している。また、病状については、適宜相談している。					
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	0	13	8	2	情報共有の工夫がされてきていると思います。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>介護職は利用者の状況を注意して観察し、問題があれば看護師へ報告する。看護師が状態を確認した上で、医師に連絡し指示をいただいている。</p>							
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	0	13	8	2	情報共有の工夫がされてきていると思います。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>連絡ノートや記録簿・ホワイトボード、朝礼時での申し送り等で情報共有を行っている。変更等があれば、その都度相談している。</p>							
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	2	15	6	0	情報共有の工夫がされてきていると思います。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>利用者に関する看護から介護への情報提供、また、介護から看護への情報提供を行い、問題に対する対応を求めるようにしている。</p>							
(4)利用者等との情報及び意識の共有							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	2	12	8	1	職員の教育を充実させてください。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 口頭の説明だけでなく、サービス計画等を用いて説明している。費用や実費負担についても具体的に説明している。職員にはまだ把握できていないところもあり、研修等で教育していく。					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	4	10	8	1	看護師やケアマネからわかりやすく具体的に説明ができています。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 看護師やケアマネより、必要に応じてわかりやすく家族、利用者等に説明している。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	3	12	7	1	看護師やケアマネからわかりやすく説明している。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 医療機器の取り扱いや説明等は、看護師が中心となり、ケア方法をその都度説明している。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	3	13	6	1	利用者や家族の意向を取り入れてもらっている。	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 利用者及び家族の意向を踏まえ、サービス計画を作成している。					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている	1	14	7	1	ほぼ出来ていると思われる。	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 状態の変化に応じてサービス計画の見直しを行い、利用者や家族と相談している。					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	3	6	9	5	看取りの際、どのような手順を行うか可視化出来るようにマニュアルみたいな物を作成されてはどうでしょうか。	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		[具体的な状況・取組内容] 終末期に関わる例が今現在ない。また、終末期ケアにおける該当がない。					
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	1	16	6	0	ほぼ出来ていると思われる。	✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共
		[具体的な状況・取組内容] 退院後の利用者に対し、主治医と連携し、在宅生活移行へ対応している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
							有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができる	4	11	7	1	ほぼ出来ていると思われる。 [具体的な状況・取組内容] 特に病状が不安定な利用者は、主治医に相談し指示をいただいている。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	3	13	7	0	<p>緊急での対応も地域の医師の協力により迅速に対応され助かっています。</p> <p>職員でできていないと思われる理由はなにかを把握し改善する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支	3	9	8	3	<p>介護保険以外のサービスを含めた支援をおこなっていくためにも、地域資源への働きかけを行ってください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足	
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない			
	援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	る。				とても大切なことだと思います。多職種と連携がとれていることで、いざという時にスムーズに対応ができ、柔軟にニーズに答えることができると思います。	援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です	
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画								
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案								
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信								
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている	6	10	5	2	よくできている。	✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します	
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 運営推進委員会の欠席者に対して、報告書の郵送や、記録の事業所内開示を行っている。職員への周知が不十分なため、運営推進会議の内容を具体的にわかりやすく伝えていく。						
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている	4	7	10	2	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 地域が集まりで看多機のサービス概要等を説明。サロンを開催し、事業所の活動を見てもらうようにしている。また、地域の活動にも	良くてできている。コロナ禍においても積極的に活動されていたと思います。	✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		参加している。					✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	0	0	0	0	指定なし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	2	4	15	2	痰吸引が必要になった時点で事業所や自宅で練習を行って頂き安心して繋がりました。 現状で良いのでは？ 受け入れる体制整備として、職員教育が重要になってくると思	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくで

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
		ール体制を整えている。				います。	きている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	0	0	11	12	現状のままで良いのでは。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	0	5	9	9	<p>受け入れ体制の整備（特に職員教育）が必要だと思う。</p> <p>終末ケアにおけるプロセスの理解の為の研修や教育をおこなってください。</p> <p>法人内の看護事業所等、有効な社会資源を活用し教育に役立ててください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が	0	9	8	6		✓ 「内容等の理解」について、その充

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
	介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している	[具体的な状況・取組内容] 地域包括システムの内容や具体的な活動方法を理解していない。地域包括との関りが必要である。				地域包括システムについては、まず地域の中での事業所の役割を職員が理解することから始めてみてはどうか。	<p>足度を評価します</p> <p>✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます</p> <p>✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などがない場合は、「全くできていない」</p>
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	3	19	4	1		<p>✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます</p> <p>✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」</p>
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている	3	8	6	6		<p>✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します</p> <p>✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要とな</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
							<p>る保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている	2	11	3	7		<p>✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します</p> <p>✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>利用者のご家族等に生活状態を伝え、看護師を中心に介護面や医療面でのアドバイスを行っている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
----	------	---------	---------------	------------------

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 利用者が自分でできることを見つけて、サービス計画に反映させている。		✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 医療が必要な利用者(痰吸引・インスリン)において、主治医の指示のもとに看護師が在宅での療養方法を家族に伝え、安心感が得られている。		✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成され	看取りの際、どのような手順を行うか可視化出来るようにマ	✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
	者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>5. 看取りの希望者はいない</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>看取りに対する職員教育や経験等が不十分な為、今後研修等を通じて看取りに取り組んでいく。</p>	<p>ニユアルみたいな物を作成されてはどうか。</p>	<p>供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>